

# 生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

<b>【研究課題名】</b>	副鼻腔 CT の経時的差分画像を用いた慢性鼻副鼻腔炎の経過観察における読影効率化の検討		
1. 研究の目的と方法	慢性鼻副鼻腔炎は日常診療において頻繁に遭遇する疾患であり、保存的治療や手術治療後の経過観察においてCTが繰り返し撮像されることが多い病気です。通常、医師は現在のCT画像と過去のCT画像を並べて比較することで、鼻や副鼻腔の粘膜の状態が良くなっているか悪くなっているかを評価しています。しかし、鼻副鼻腔は左右対称で複雑な形をしており、上顎洞、篩骨洞、前頭洞、蝶形骨洞という複数の副鼻腔があるため、広い範囲の変化を正確に評価するには多くの時間と労力が必要です。特に手術後の患者さんでは、元の形が変わっているため、画像の比較がさらに難しくなることがあります。この研究では、「経時的差分CT画像」という新しい技術を使って、過去のCT画像と現在のCT画像の差を計算し、変化した部分を強調して表示することで、医師が変化を見つけやすくなるかを検証します。この技術により、診断にかかる時間が短縮され、より正確な診断ができる可能性があります。本研究では、すでに撮影されたCT画像を用いて、この新しい画像診断方法の有用性を評価することを目的としています。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2027年12月31日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	附属病院で2009年5月1日～2025年12月31日までに慢性鼻副鼻腔炎の診断で経過観察中に、同一撮影条件で2回以上のCT撮影が施行され、2回のCT撮影間で少なくとも1つ以上の副鼻腔において軟部組織濃度の変化が認められた18歳以上の方。		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。	
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3) 情報の種類	年齢、性別、治療歴、副鼻腔 CT 画像、経時的差分 CT 画像の所見	
	(4) 情報の取得の方法	診療録や画像診断システムからデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 研究責任者または研究代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学放射線医学講座
		氏名	大木 洋平
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 試料・情報の管理責任者	(1)の研究責任者と同じ	
(4) 共同で研究を実施する機関とその責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。		

6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 情報の利用開始予定日：2026年3月頃～
<b>【問い合わせ先】</b>	機関名：東京慈恵会医科大学放射線医学講座 研究責任者：大木 洋平(おおき ようへい) 電話：03-3433-1111 (内線：2942) 対応時間：平日 9:00 ～ 17:00

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。  
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。